

イカ墨の暗幕で求愛の舞台を作る ——墨を使ったエゾハリイカの特異な求愛行動——

発表のポイント

- ◆コウイカ類の一種・エゾハリイカの雄が、通常は捕食者に襲われた際に用いるイカ墨を、求愛ディスプレイにも用いることを発見しました。
- ◆イカ墨で背景を暗く単調にすることにより、明るい体色の求愛ディスプレイを際立たせる効果があると考えられます。
- ◆複雑な動物コミュニケーションの進化プロセスの理解に役立つことが期待されます。



求愛に墨を用いるエゾハリイカ

概要

東京大学大学院農学生命科学研究科の中山新大学院生と大気海洋研究所の岩田容子准教授、河村知彦教授、青森県営浅虫水族館らによる研究グループは、コウイカの種類エゾハリイカの雄が求愛時に“イカ墨”を使って背景を操作することで、求愛ディスプレイを視覚的に際立たせていることを明らかにしました。

エゾハリイカの求愛行動を、浅虫水族館において世界で初めて詳細に観察した結果、雄は雌の背中を撫でたり、小さな墨の塊を吐いたり、触覚的・視覚的シグナルを規則的に使用する精巧な求愛を行うことがわかりました。さらに求愛のクライマックスには、ディスプレイを行う場所の背景に墨を吐くことにより、即時的に周囲の視覚環境を操作することを明らかにしました。本研究は、本来は捕食回避のために用いるイカ墨を繁殖行動に流用するという、動物の持つ柔軟性を示しており、様々な動物のコミュニケーションの進化プロセスの理解に役立つことが期待されます。

▼詳細は、プレスリリース掲載ページにてご確認ください。

プレスリリース

<https://www.aori.u-tokyo.ac.jp/research/news/2024/20240202.html>



発表者・研究者等情報

東京大学

大学院農学生命科学研究科

中山 新 博士課程（日本学術振興会特別研究員）

大気海洋研究所

岩田 容子 准教授

河村 知彦 教授

東海大学海洋学部

佐藤 成祥 講師

青森県営浅虫水族館

論文情報

雑誌名 : Ecology and Evolution

題名 : Ritualized ink use during visual courtship display by males of the sexually dimorphic cuttlefish *Sepia andrea*

著者名 : Arata Nakayama*, Shunsuke Momoi, Noriyosi Sato, Tomohiko Kawamura, Yoko Iwata*

URL : <https://doi.org/10.1002/ece3.10852>



問合せ先

東京大学大気海洋研究所 海洋生物資源部門

准教授 岩田 容子（いわた ようこ）

E-mail : iwayou@aori.u-tokyo.ac.jp

※アドレスの「◎」は「@」に変換してください。